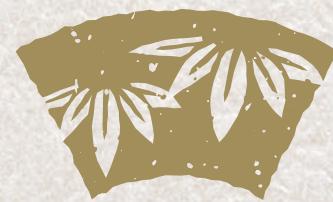




佐渡島伝統芸能BOOK

舞台芸能編

佐渡では、能や人形、歌舞伎などの舞台での芸能を鑑賞することができます。それらのほとんどが他の職業についている住民が演じています。地元に根付いた佐渡の舞台芸能を紹介します。



能

佐渡では、盛んに能が披かれています。ほとんどが能を生業としている人ではなく他に仕事を持っている人が舞台に立っています。生活の中に能が息づいていると言えるでしょう。では、佐渡の能はどのように広まっていったのでしょうか。

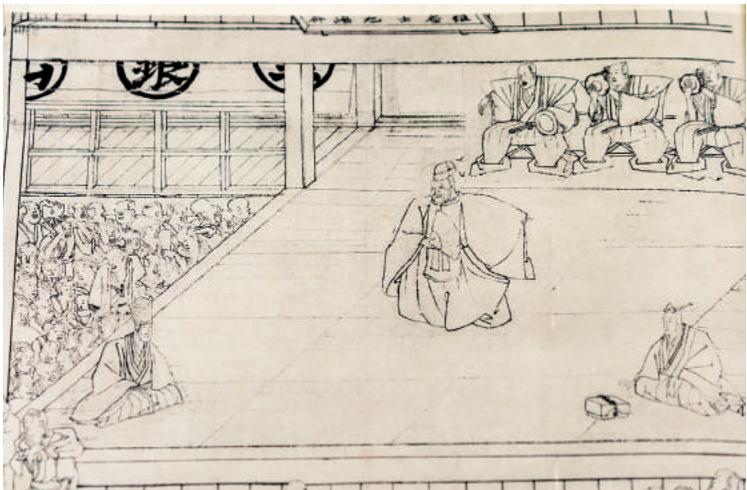
江戸時代、金銀山を抱える佐渡は幕府が直接治める天領でした。1604年(慶長9)
佐渡代官大久保長安が江戸から、常太夫・杢太夫という二人の能役者を連れてきた
ことが佐渡の能のきっかけとされています。佐渡における能は相川の役人と町衆に
支えられ大山祇神社や春日神社などの神事能によって確立してきました。

※春日神社は1605年(慶長10)春日崎に建てられ、1619年(元和5)現在地に移されました。



大久保長安によって建てられた
春日神社の能舞台は明治のは
じめころに消滅。現在の能舞台
は、2006年(平成18)に羽茂瀧
平から移築したものです。





江戸時代の演能(相川十二ヶ月)



✿ 江戸時代の佐渡の能

江戸時代、能役者の身分は士分(侍)で幕府や藩から俸禄を貰っており演能も庶民はほとんど見ることができませんでした。しかし佐渡では能を演じる人のほとんどが仕事を持ちながら趣味でやっていて、仕事としてやっている一握りの人も身分は農民や商人でした。また演能も例祭などに奉納したので誰でも観ることができました。

✿ 明治維新と佐渡の能

明治維新により能楽師は幕府・藩からの俸禄を失いました。中央では能最大の危機と言われていましたが、佐渡ではこの頃からさらに広がりを見せ、能舞台の建設ラッシュが始まりました。農民や商人が行い支えてきたからこそ中央の危機の時代に多くの能舞台が建てられ能の島と言われるようになったのです。



べしみ面(正法寺所蔵)

✿ 世阿弥と佐渡

能を確立したと言われている世阿弥は、1434年(永享6)に6代将軍足利義教によって佐渡に流され、佐渡の暮らしなどを『金島書』^{きんとうしょ}という書物に残しています。その中に佐渡の神社で舞った記述がありますが世阿弥によって佐渡の能が庶民に広まった訳ではありません。

※「爰は当国十社の神まします 敬神のために一曲を法楽す」



佐渡芸能アーカイブ

大膳神社の奉納能の動画が見られます

<https://www.youtube.com/watch?v=vSP30uiPUBA>